

令和4年2月23日の 御嶽山噴火警戒レベル引き上げ時の対応について

1. 対応の状況

2月23日（水）16:15頃 火山活動に関する情報提供

気象庁の担当者から、県・市に御嶽山の活動が活発化しているとの連絡
→両県庁、関係市町村、地域振興局、県事務所の担当者は登庁

2月23日（水）16:35 噴火警戒レベル2発表

○各機関の主な対応

市町村	地元関係者に連絡、登山口に規制看板の設置 HP、SNS などによる情報提供
県庁	登山届の回収を県警・市町村に依頼 登山者の立入状況の確認 HP、SNS などによる情報提供
地域振興局（県事務所）	火山防災協議会構成員に情報提供 名古屋大学山岡教授の見解の依頼、共有 長野県、岐阜県間の機関の対応状況の共有

2月23日（水）20:00 長野県警戒連絡会議（※岐阜県も参加）

2月24日（木）15:00 岐阜県御嶽山に関する説明会（※長野県も視聴）

2月25日（金） 気象庁による上空からの調査を実施

3月8日（火） 事務局会議（臨時）の開催

火山活動の状況について、山岡教授の見解を伺うとともに、関係機関の状況の共有

6月21日（木）14:00 山小屋等に対して噴火警戒レベル引き下げの説明会

6月23日（木）14:00 噴火警戒レベル1に引き下げ

- ・開田口、小坂口、日和田口、チャオ御岳口、胡桃島キャンプ場口、黒沢口登山道等は、7/1 から緩和（積雪のため一部は通行止のまま）
- ・王滝口登山道は、7/10 から緩和

2. 良かった点、課題

- ・全体的に火山防災避難計画に基づき、各機関とも自分の役割を把握し、スムーズな対応を行うことができた。
- ・冬季（積雪）のため、登山者がいなかったため、登山者対応は問題なく行えた。
- ・登山計画書の回収について、積雪等でポストまで行けず回収困難であった。
- ・直接影響が及ぶ山小屋関係者や地元住民への情報提供の方法（タイミング、方法など）について、今後検討が必要
- ・想定火口域の変更に伴う火山防災避難計画の改訂の検討と時期が重なったため、当時の現行計画に基づき規制をするか、新計画に基づき規制をするかについて調整が必要であった。
- ・火山活動の状況、各機関の対応等についての情報共有
（幹事会開催の検討、事務局会議の早期開催など）
- ・噴火警戒レベルの引き下げのタイミングが、山開きのタイミングと重なったため、市町村ごとの規制緩和のタイミングの調整を取ることが難しかった。